異本『粋興奇人伝』

――解題と影印――

佐藤　悟

解題

『粋興奇人伝』は山々亭有人と仮名垣魯文の編輯になるもので、文久三年に刊行された。内容は粋狂連・興笑連の同人の画像、略伝、三題噺を集めたもので、三題噺、興画合、悪摺などの関係者の伝記研究には不可欠のものである。複製本が武藤禎夫編『未翻刻江戸小咄本十一集』（近世風俗研究会、一九六八年）に備わる。

異本『粋興奇人伝』（個人蔵）は刊本の校合本に相当するものである。彫り残しがあり、刊本との異同も見られるが、校合を行った形跡がないので、校合本ということはできない。小寺玉晁が入手した経緯も不明である。刊本とは彫り残し以外に次のような異同がある。この異同を発見されたのは故向井信夫氏であった。異本では刊本の「木しら雪」（300頁収載図版A）という三題噺の作者名が「松裏紅花舛」（図版6）、「好文舎花兄」（308頁収載図版B）が「松花園楽雅」（図版

13)、「山衣細道」(316頁収載図版C)が「蒼仙斎東甫」(図版20)と記されている。これらにより木しら雪が『かくやいかにの記』の作者長谷川元寛であることや、[註1] 山衣細道の略伝にみえる東甫が山衣細道その人であることが知られる。

底本書誌

体裁　中本　縦十八・一糎、横十二・二糎

丁数　二十七丁(キャプションに記した丁付は刊本による。但し「上1」は原本丁付なし。)

外題　「粋興奇人伝　全」(書き題簽)

柱　「三題はなし」「三題ばなし」

画工　〔一恵斎芳幾〕

筆耕　〔宮城楓阿弥(玄魚)・武田交来〕

板元　〔丸屋徳蔵〕

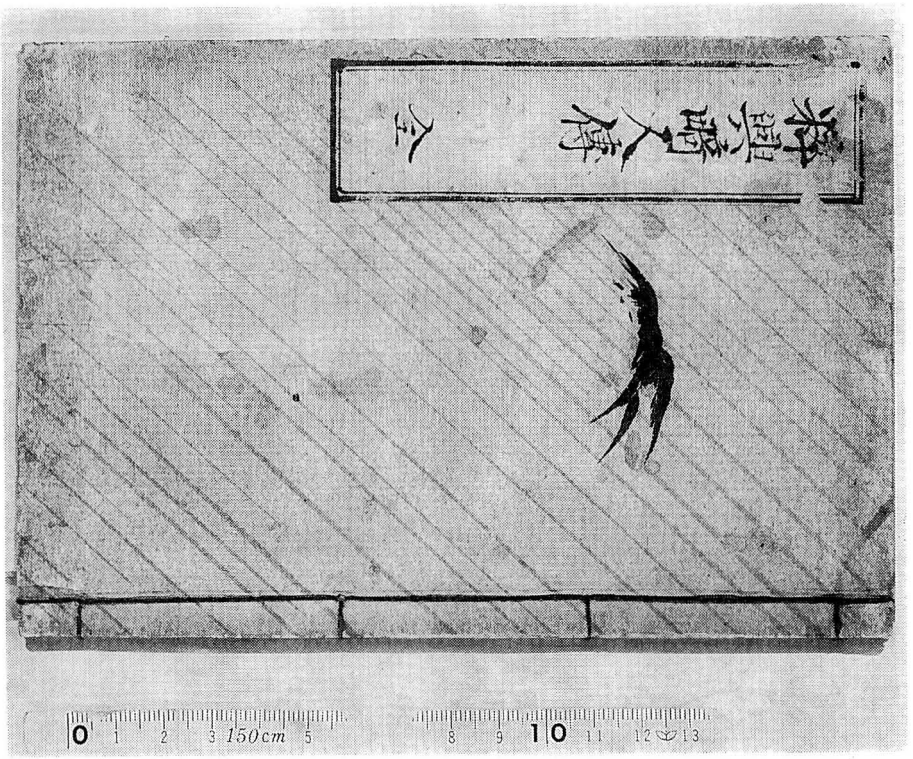
備考　本書に欠く刊本の見返し、刊記によって知られた情報は〔　〕で示した。

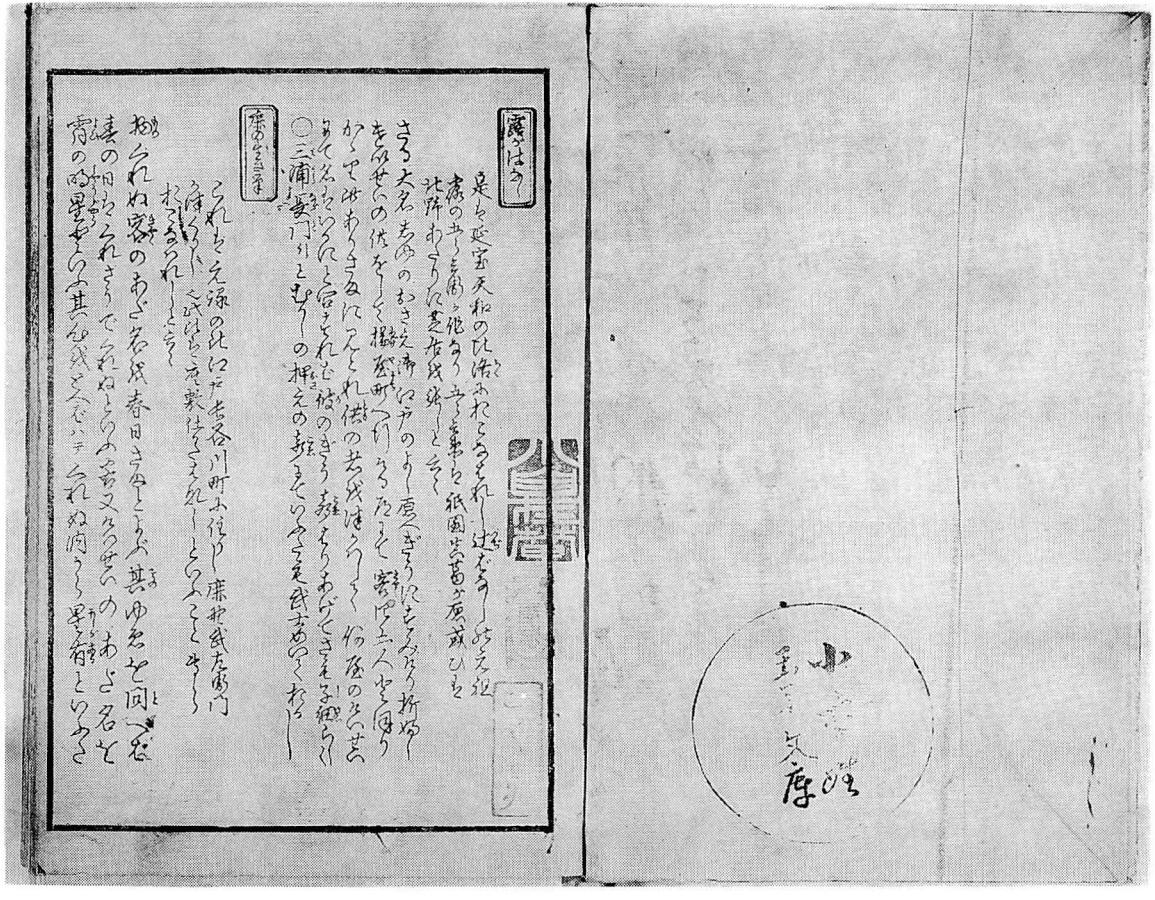
註1　拙稿「『かくやいかにの記』の周辺」(『国語と国文学』一九八四年六月)

追記

異本(図版15)の三題噺作者名「文渓舎栄寿」は刊本後摺本では入木により「文桂舎栄寿」と訂正されている。

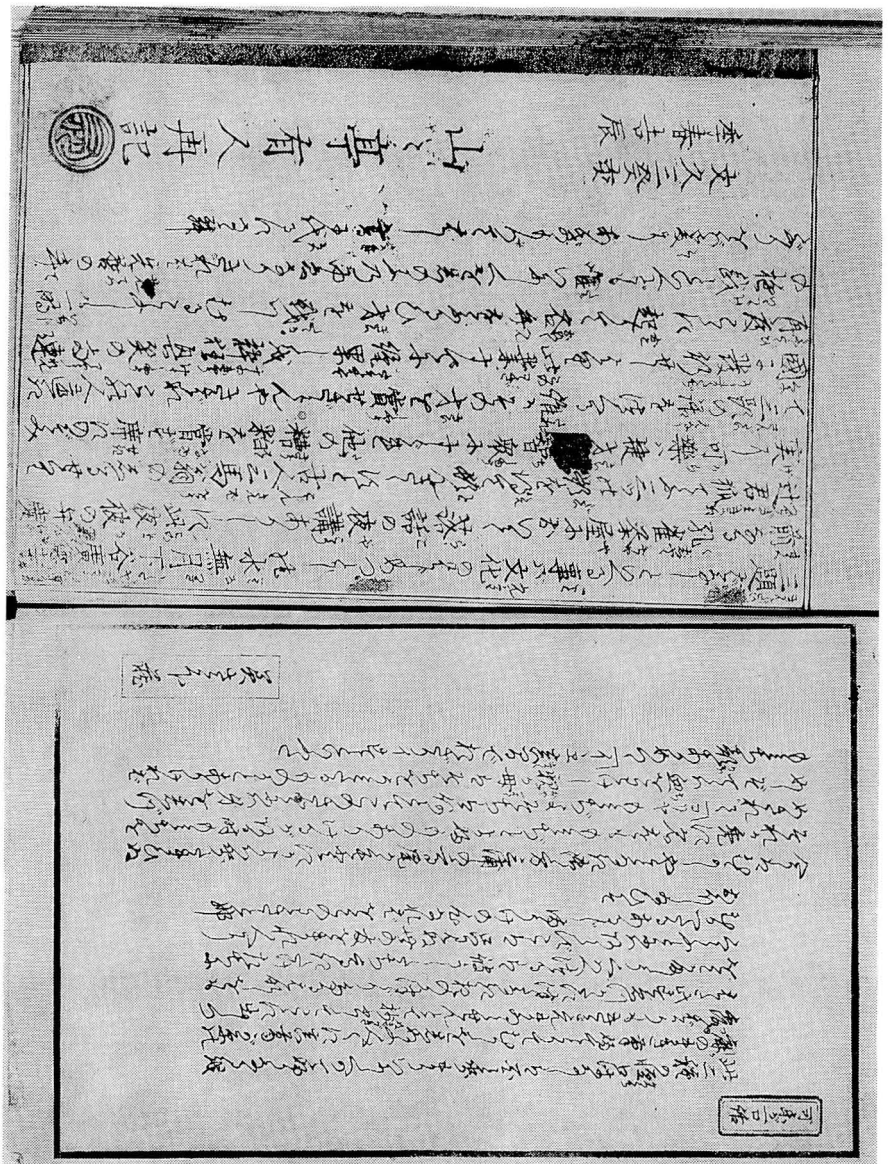
図版1（表紙）

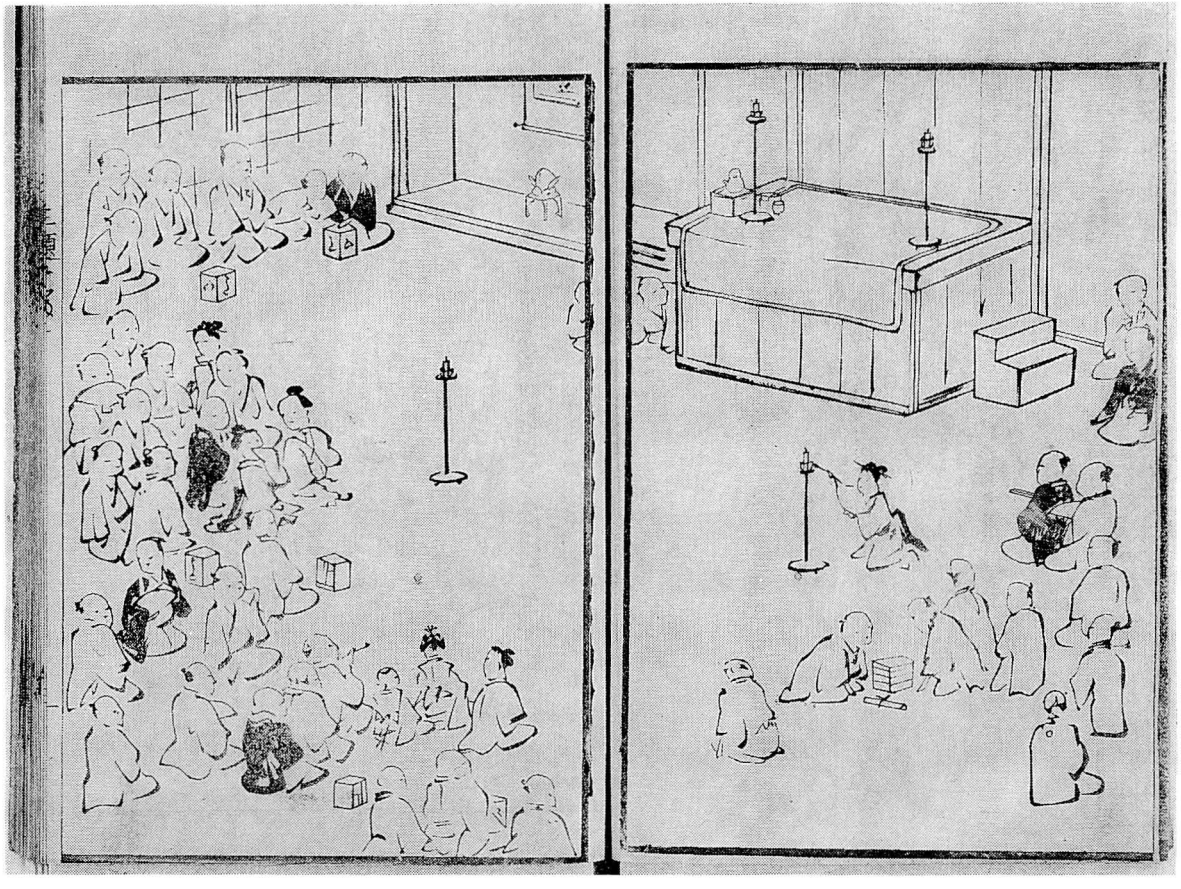




図版2（見返し・上1オ）

図版3（上1・7・上2・4）



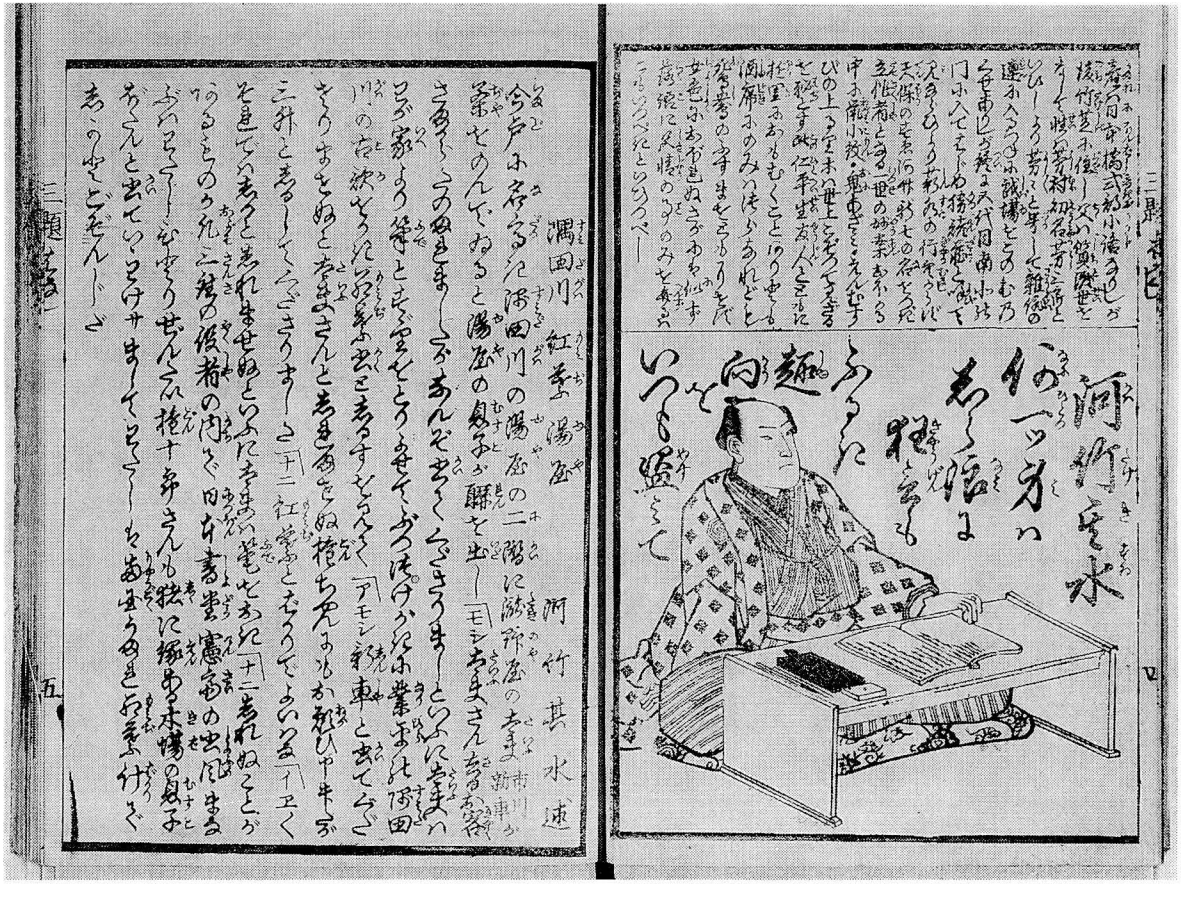


図版4（上2ウ・1オ）

図版5（1・4・3）

図版A（3ウ・4オ）

図版6（3ウ・4オ）



図版7（4ウ・5オ）

図版8（ウ5・オ7）

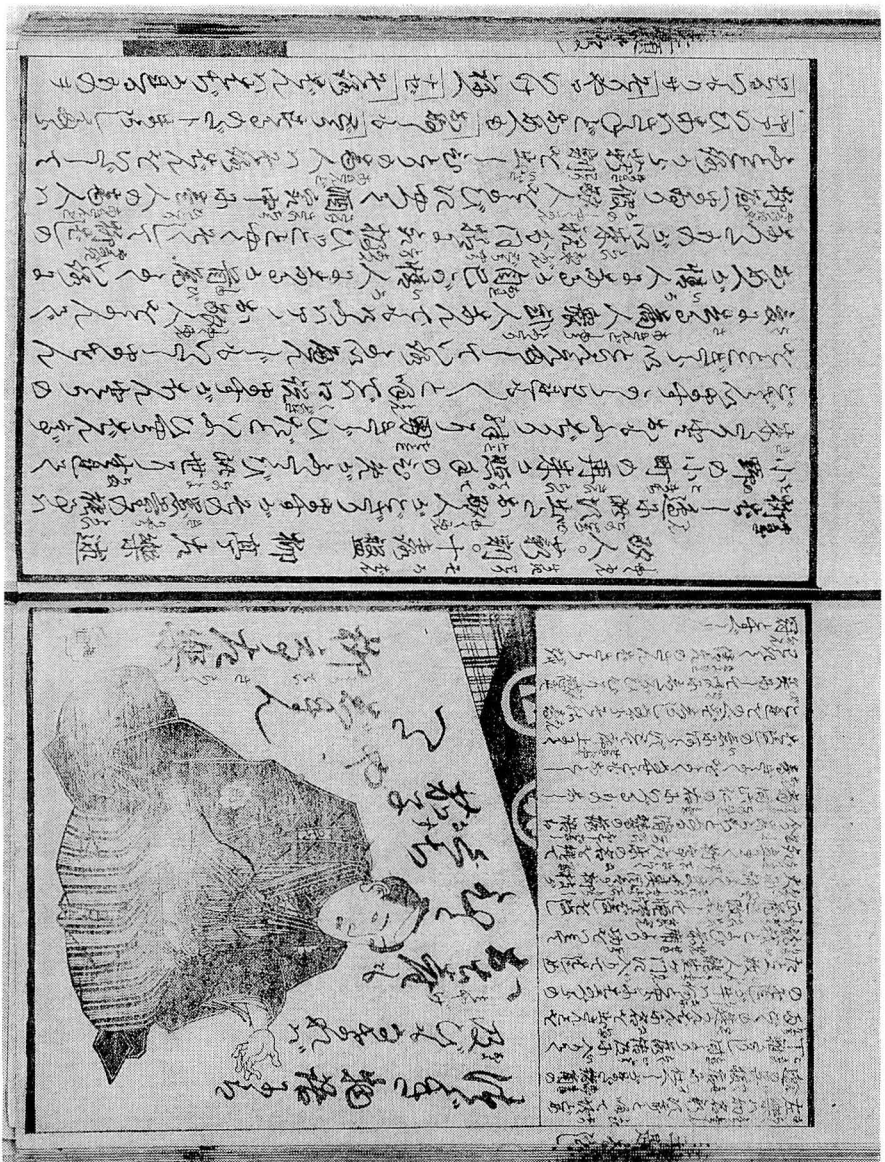
牛車柳花園　福牡丹　山々亭有人作

図版9（7ウ・8オ）

図版10（8ウ・9オ）

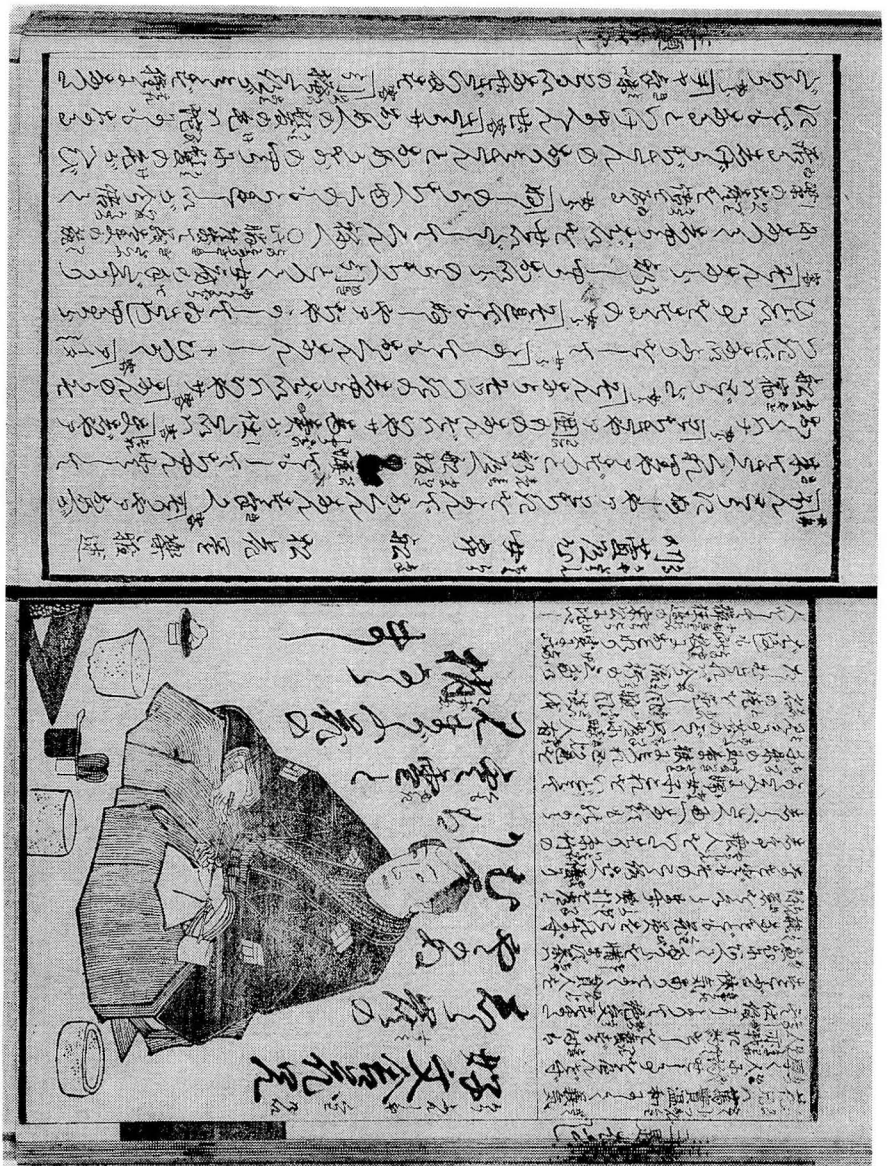
図版11（6ウ・7オ）

図版12（10ウ・11オ）



図版B（11ウ・12オ）

図版13（11ウ・12オ）

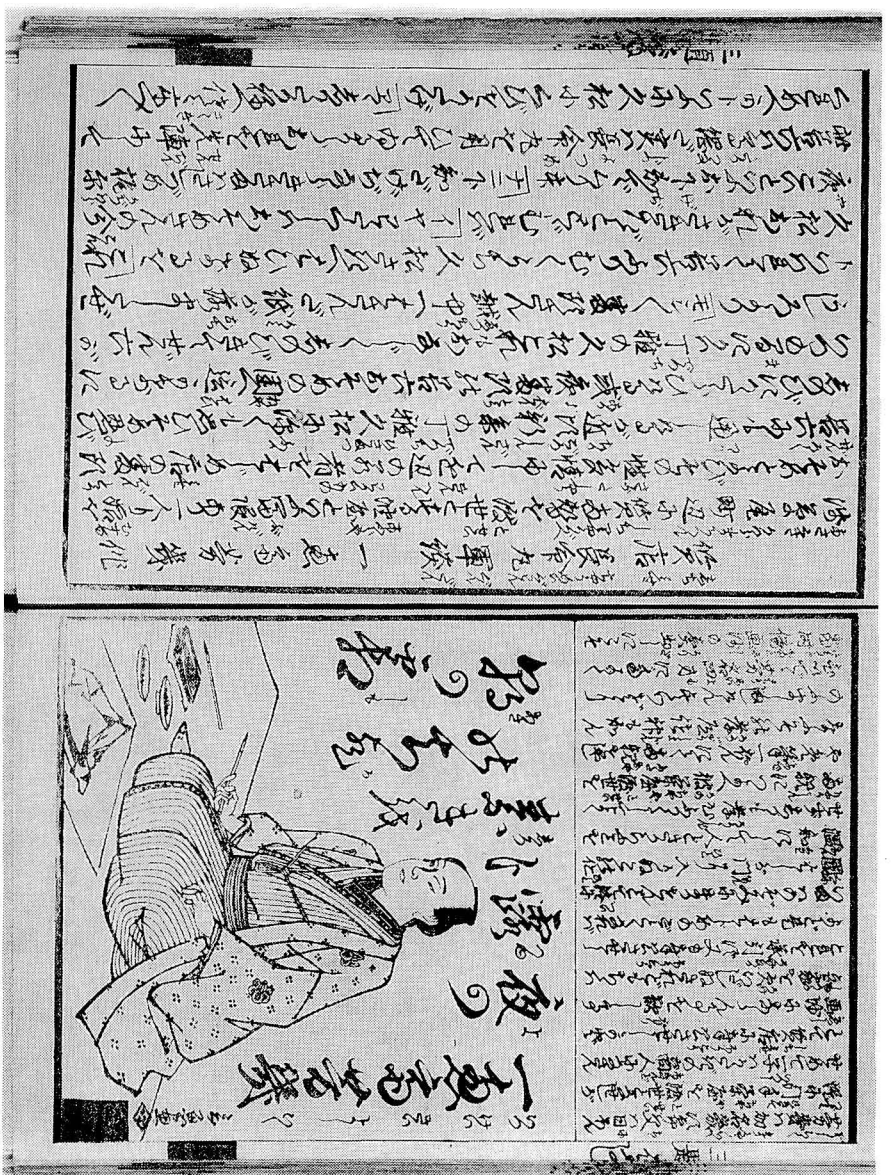


図版14（12ウ・13オ）

図版15（13ウ・14オ）

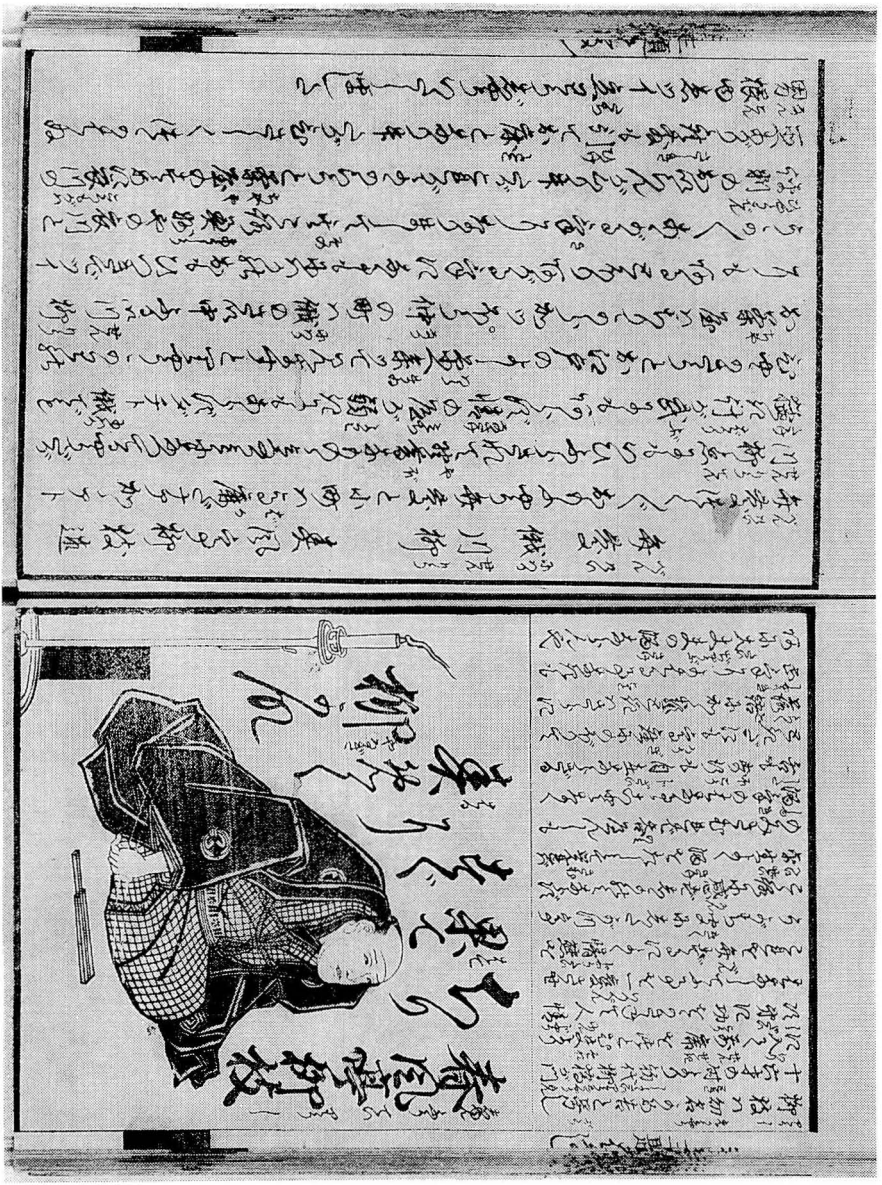
図版16（14ウ・15オ）

図版17（15・16オ）



図版18（16ウ・18オ）

図版19（18ウ・19オ）

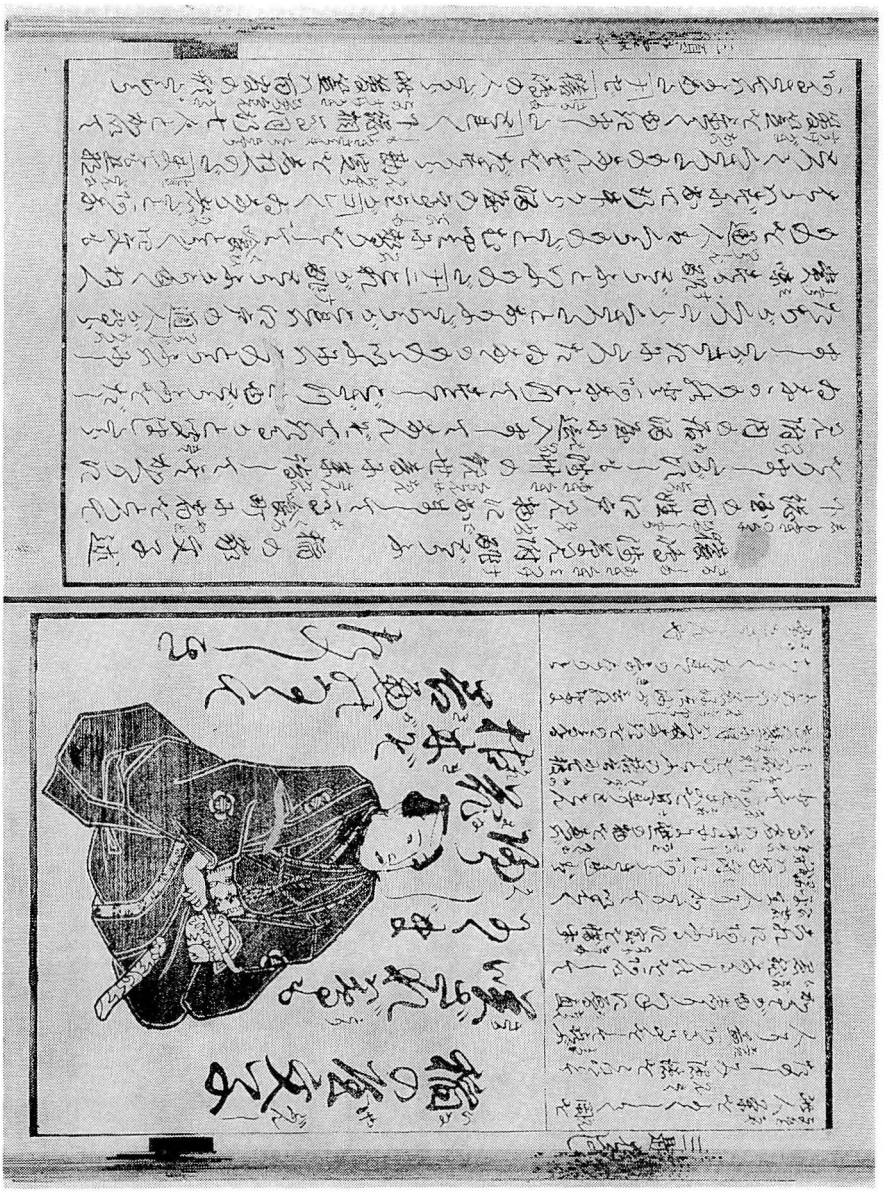


図版 3（61ページ・62ページ）

図版20（19オ・20オ）

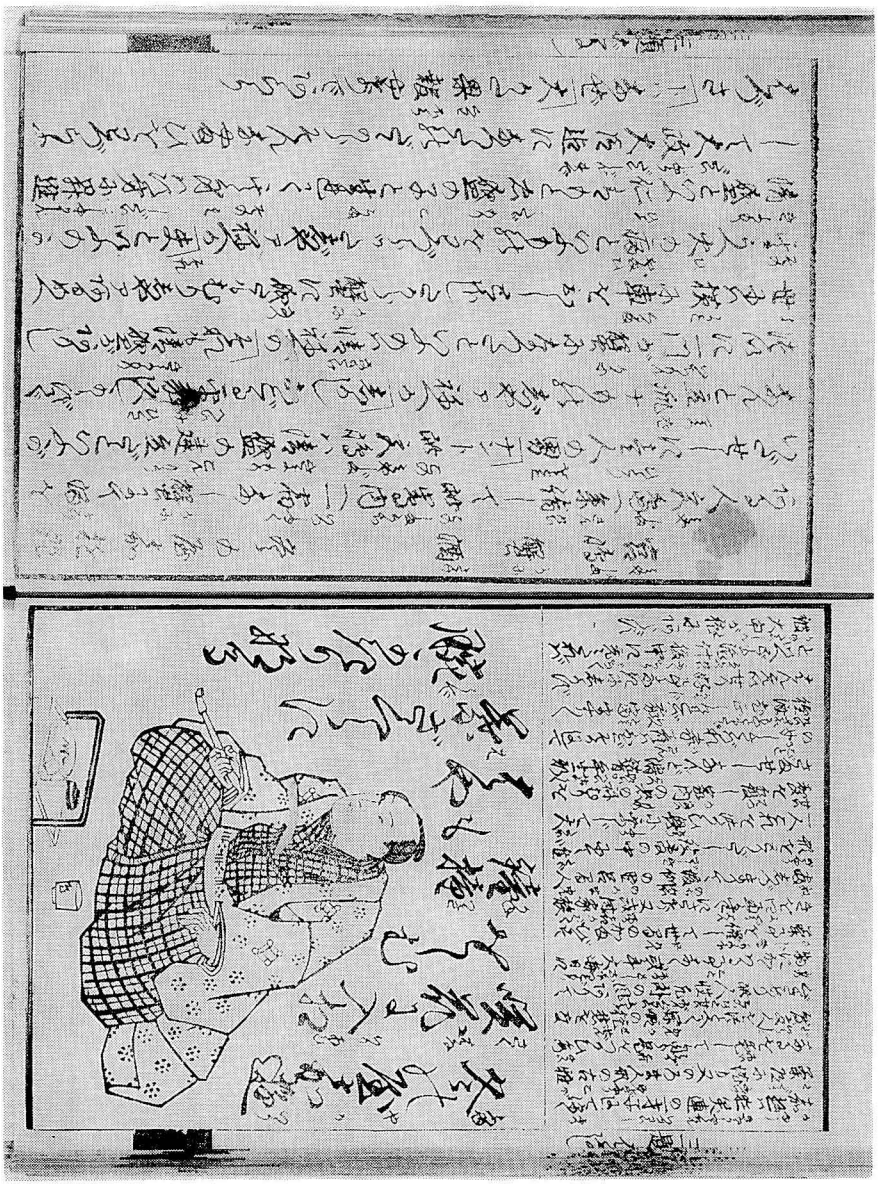
図版21（20ウ・21オ）

図版22（21ウ・22オ）



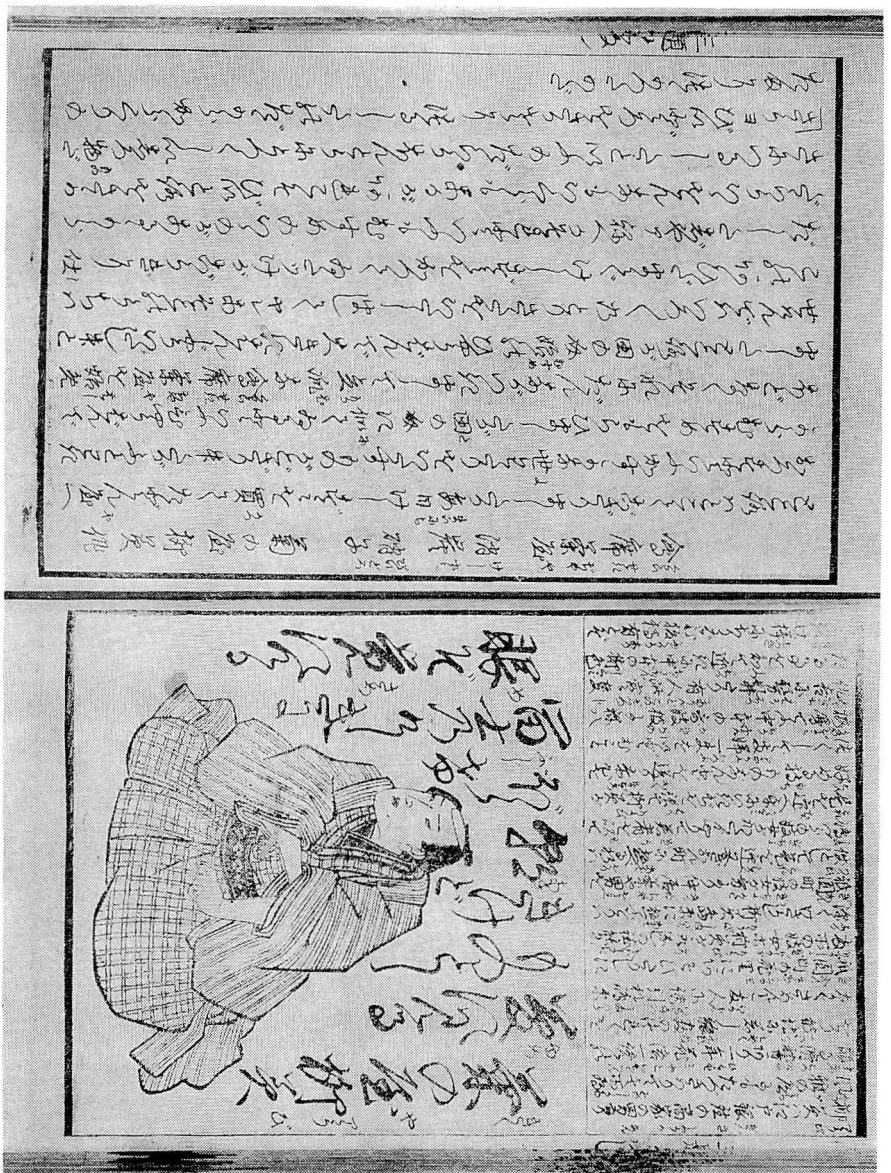
図版23（22ウ・17オ）

図版24（17ウ・24オ）



図版25（24ウ・25オ）

図版26（25ウ・26オ）



図版27（26ウ・跋1オ）

粋興畸人傳後叙　蕃父不輝

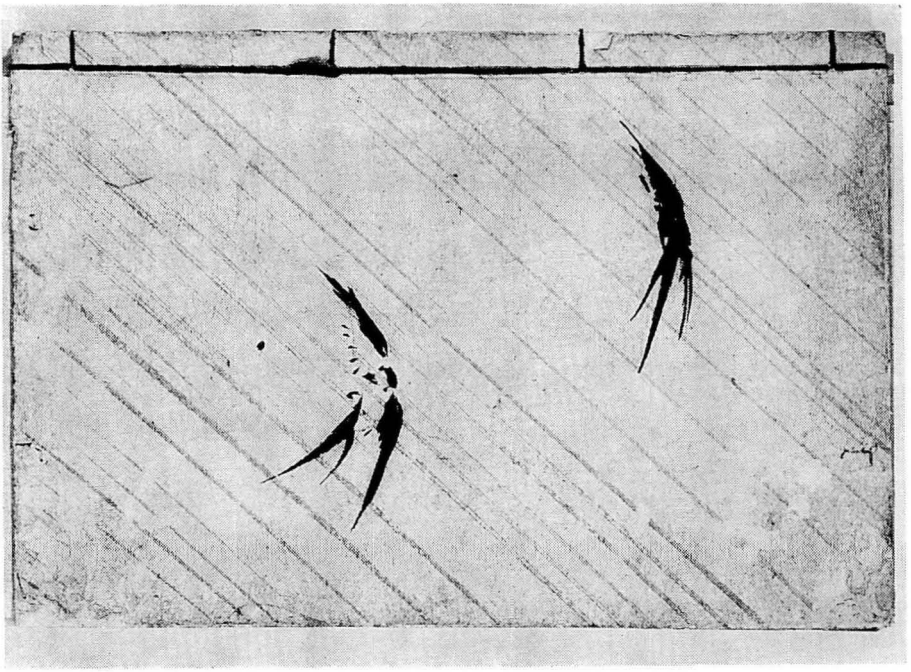
唐山の羅氏水滸の奇編を世に著し愉快の談柄茲に起原本朝の通客粋興の畸人を溪々三題噺を再興せりさ係ら此道の龍虎山り比競し有人玄魚の兩遊子去る歳伯樂街なる松本茶亭の伏麗殿に高坐を開拓しあり春の屋大人を始とし滑稽酒落の英雄豪傑當時諸所左樂小黨を集群落語の集會を催企て天岡地祭の衆星物の連中諸子癖話の十八般の家に株に噺家を是

情談泊と口合を芽幾風とうび型色を河竹流と總称ぬ扇夫を林中をし豹子扇の藝名に附會談志に実用をきし樽拾の丁雅と謬錯如皐り長談全傳の一百餘回に髪髢とし柳枝の短話王英が身材り似し話説と發語の稗官者流雅言に侍る皇國調霧闇に多弁地口風銘し一家の大頭領亙に鼻の高坐扇子ぼくの異風凛し十面遣に相貌堂し或に黄口の投名状に即題の物をうけし張飛牌の金印をうけて蒙汗藥を

図版28（跋1ウ・跋2オ）

飲るを如く或ハ神行大保の脚ハ等類趣向の疾を誇香
ゆるもなるべし莫遮新の甲乙ハ聽主の聖數ゞ批評
に譲り奇癖を探索て肖像の棚ハ牽る魚用葦蒙
賴まるもせぬ穿鑿ハ實ハ餘慶の仕事にて粹與
傳といふべく而已

于時文久三の春ちぢめし二目若水ある亀井町
門辺ハ建し竹籠の間ハ狭る小亭の樓上ハ誠筆を

假名垣魯文戯述

図版30（裏表紙）